

ヘルスケーススタディー

近代医療と代替医療、その他のヘルスケア、健康分野での具体的な症例に対する「症状」「診断」「治療」「予防法」などを聞く

大学入学のストレスで発症 薬物と心理療法で症状改善

症状

大学に入学し、念願の一人暮らしを始めたが、特に理由もないのに気分が落ち込んで不安定になり、「死んでもいい」と思い詰めるようになった。なんとか学校には通っていたが、行くとき具合が悪くなり、授業に出られなくなりました。

診断と治療

石川先生が話を聞くと、この女性は、胸が苦しい、人が怖い、誰もいないのに人の声が開こえる(幻聴)、実



患者と家族の両方に来院してもらい、統合失調症という病気や、薬の働きなどについて、図や写真を使って説明する。症状の改善と維持には、家族のサポートが欠かせないという。

際に存在しないものが見える(幻視)、警察に尾行されているなど、明らかに間違っていた考えや状況を信じてしまう(妄想)などの症状を訴えた。ほかにも不眠と食欲低下がひどく、どんどんやせてきたという。

頭部コンピュータ断層撮影(CT)検査の結果、脳に異常はなかった。そこで、症状と「喜怒哀楽に乏しい表情」などから、統合失調症と診断された。

この女性は、症状が顕著に出ていることから、検査と並行して、「抗精神病薬」による治療を直ちに開始した。抗精神病薬は、脳で分泌される神経伝達物質に作用し、幻覚や妄想、うつ症状などを改善すると考えられている。さまざま

な種類があり、効果に個人差があることから、「試行錯誤を繰り返して、最も合った薬と量を見つけることが重要」と先生は話す。

また、心理カウンセリングを同時に開始。精神疾患の大敵とされる肉体的・精神的ストレスにうまく対応する方法や、症状を早めに認識して対処する方法などを、カウンセラーと一緒に考えた。

この女性は、最初に処方した薬の効果があまりな

管理

石川先生によると、統合失調症は、薬を止めると症状が再度前面に出てくる可能性が高い。医師の指導の下、薬の効果と副作用を定期的にモニターし、再発予防に長期的に取り組む姿勢が大切という。

この女性は、エビリファイ服用を始めたところ1カ月は、学校にもほぼ普通に通えるほどに回復し、治療に前向きに取り組んでいる。

(大村智子)

今回のケース

学校に行くとフラフラして具合が悪くなり、授業に出られなくなりました。このままだと落第が心配です。

病名	統合失調症		
年齢	10代後半(学生)	性別	女性(アメリカ人)



石川敦子先生
(Atsuko Ishikawa, MD)

精神科医師(米国精神神経学会認定)。長崎大学医学部卒業後、同大病院内科レジデンスを経て来米。アイオワ大学病院・クリニックで精神科レジデンス、児童思春期精神科フェロシップを修了。米国精神学会および米国児童思春期精神医学学会の会員。

Information

日本クリニック
Nihon Medical Healthcare
15 W. 44th St., 10th Fl.
(bet. 5th & 6th Aves.)
TEL: 212-575-8910
www.nihonclinic.com